

11 その他重要な事項

1) 創立370周年記念事業の推進

本学が創立370周年を迎える平成21年度は第4次長期計画の最終年度である。その記念事業は、本学の第4次長期計画の完遂を目指し、大学・親和会・校友会の三者による協働で計画されたものである。記念事業の支柱は「教育・研究・学生活動の支援事業」「施設設備の環境整備事業」「積立金事業」「記念式典事業」の4事業であり、それぞれの事業については、年次計画の中で具体案を策定する。各事業に必要な資金の一部として、40億円を目標に募金活動を実施するが、既に募金申し込み額は1億円余あり、平成18年度は3億円を目標に募金活動を実施する。なお、募金活動については今後も継続して実施していくこととする。

2) 浄土真宗本願寺派との連携

本法人の設置理念や寄附行為からもわかるとおり、浄土真宗本願寺派との関係は重要であり、今後も維持すべきものである。本法人の発展に係る歴史的経緯を見ても、人的・経済的な側面等において浄土真宗本願寺派から様々な支援を受けており、今後、本法人が多様な展開を進め社会的支持基盤を確立していくために、浄土真宗本願寺派との連携を強化していくこととする。また、浄土真宗本願寺派は、親鸞聖人750回大遠忌（平成23年）に併せて多様な記念事業を予定していることから、本法人は創立370周年記念事業などの諸事業において連携・協力関係を構築し、各事業を効果的に展開していく必要がある。

平成18年度については、現在検討が進められている龍谷総合学園学校間連携強化構想の中で、教育連携に関する具体的な事業計画が検討される予定であり、本学は龍谷総合学園の中心大学として、積極的に参画していく。また、本学が構想する「龍谷ミュージアム開設事業」については、文化財の保護・活用や本願周辺施設の整備を検討している浄土真宗本願寺派との方針が一致しており、開設に向けて具体的な検討を進めていく予定である。その他にも、浄土真宗本願寺派が進める千年の森（本願寺の森）構想、ビハーラ実践活動の拠点となる社会福祉施設の建設・運営、国際貢献や社会的活動を推進するNGOの設立、本願寺門前町の活性化に係る事業には、本法人への協力が求められ、各検討委員会に教職員を派遣していることから、効果的な関わり方や事業の連携を視野に入れながら協力を行う。

3) 首都圏における展開

東京オフィスは本学の東京地区における活動の足掛かりとして設置され、入試、就職、卒業生交流、生涯学習機会の提供等、大学資源を有効活用し、首都圏における事業を行っている。

入試業務としては、入試関連イベントの参加や関係機関等の懇談・情報収集を行い、学生募集戦略を構築・展開していく予定である。

REC業務としては、6月にシンポジウムを開催し、本学の知名度向上とコミュニティカレッジの集客を図る。コミュニティカレッジは月1回の実施で年間9回開催する予定である。

総務部は平成17年度に発足した校友会東京支部・神奈川支部の活動支援及び活性化のために全国支部長会を東京で開催し、併せて講演会実施を予定している。

キャリア開発部は、TV会議システムを活用した関東地区在住の卒業生による学生就職支援や関東圏企業との日常的な交流強化を予定している。

首都圏における知名度を高めるべく、東京オフィスと各部署が連携し、関東地区における諸活動を展開していく。

4) 校友会・親和会との連携

校友会ならびに親和会は、いずれもその設立趣旨に則り、龍谷大学の発展に資すとともに、会員相互の親睦を計ることを目的として積極的な活動を展開している。

校友会と大学の連携による主な活動は、ホームカミングデーの共催、卒業生をも含む学生のキャリアアップ支援等である。また、親和会は学生への目に見える支援として、課外活動への物心両面にわたる援助、他の奨学制度を補填する柔軟な経済援助等を通じ、大学との積極的な連携を図っている。

平成18年度の事業計画として特記すべきは、校友会・親和会・大学の三者が一体となり企画運営する「三者共催事業」を「龍谷 in 東京」として、広く一般にも開放し開催することである。また、「記念事業募金活動」についても、今後の大学発展に大きく寄与すべく三者が協働しつつ展開していく。